

ミンク岡山情報

中国民放クラブ
岡山支部
2009.9.16

中国民放クラブ秋の大会

岡山大会にご参加を

十一月十二、十三日です

四年に一度、中国民放クラブ秋の大会岡山大会が、来る十一月十二日(木)、メルパルク岡山で開催されます。中国民放クラブ四支部(広島、山口、山陰、岡山)が集う大会は、春と秋に行われ、秋は各支部が持ち回りでそれぞれの地で開かれ、翌日にはゴルフや観光のイベントも伴います。



今年(2009年)は岡山で四年ぶりに開かれる大会です。四年前の前回は百十五名の参加があり大成功でした。ただ最近各地での秋の大会は参加者が減る傾向も見せております。岡山支部理事会としては、できたら百名を突破する参加で成功させたいと念願しております。そのためには地元である岡山支部会員の参加が重要です。皆様、多用のところでしょうが、万障お繰り合わせの上、ぜひ参加をいただきたいと思っております。尚、十一月十二日(木)の大会はメルパルク

で、十七時から開催されます。翌日(十三日(金))は、エクスカーションとしてゴルフ

(東児が丘マリンヒルズ)、観光(児島、倉敷)を予定しています。児島ではジーンズの秘密をのぞきますし、倉敷では大原美術館のほか「もう一つの倉敷」として「倉敷の歴史」などにも触れていただく予定にしております。

大会の正式な案内は、中国民放クラブ(広島)から九月末ごろ皆様あてに発送される予定です。



―同好会便り―

再度チェンマイへ!

―旅の会からのお知らせ―

好評だったチェンマイの旅、皆様から再度計画をとの声にお応えすべく準備中です。

チェンマイの気候が一番安定している来年一月を目途にして。

燃料サーチャージもアップの燃料が聞こえ始めていますが、予算はお一人様前回並みの二十万円程度と考えています。

古い日本の良さが垣間見える美しいチェンマイ、治安は日本以上に良く、優しさに触れ合おうではありませんか。

像に乗ったり、蛇を首に巻いたり、普段出来



ないことを楽しみましょう。食事も美味しく、果物も豊富、しかも在住の高屋君の案内が素晴らしい、何も心配することはありません。

旅の会幹事 豊田新一

・写真同好会から

◎ 秋の撮影会：十月二十一日(水)

岡山市東区「大島」で実施します。

(小雨決行)

・ 交通手段：路線バス(両備バス岡山西大

寺線、宝伝線)と定期船を利用します。

「行き」岡山駅 8:57 → 天満屋 9:05 → 西大

寺バスセンター 9:32

西大寺バスセンター 10:00 → 西宝

伝 10:42

宝伝港 11:00 → 大島港 11:05

「帰り」大島港 15:35 → 宝伝港 15:40

西宝伝 15:51 → 西大寺バスセンター

16:34

西大寺バスセンター 16:40 → 天満

屋 17:07 → 岡山駅 17:12

・ 集合時間：岡山駅から乗車する人はバス

◎ 番乗り場に 8:30 までに

(途中から乗車する人は申し込み時に停留所名を明記)

・ 見学ツアー：大島アトプ

プロジェクト

「精錬所」(希望者のみ)

・ 参加費：無料(但し、交通費、入場料、飲食代は各自負担)

・ 申込切日：十月十四日(水)

・ 幹事(井垣)まで

※ 詳細は、参加者に後日お知らせします。

◎ ホームページ作品展… 作品の募集を毎月行っています。

・ 応募点数：1点または1組(組写真は1組3枚まで)

・ 応募切日：毎月の第4水曜日

応募規定があります。初めてのの方は問合せを。

◎ 例会 … 三ヶ月毎に岡山県生涯学習センターで開催しています。次回は十月になりませんが、十一月十二日の中国民放岡山大会で作品展示を行いますので、これを例会に代えさせていただきます。

◎ 会員数 … 八月末現在四十名 (内、女性三名)

※ 「撮影会」、「ホームページ作品展」、「例会」には、会員以外の方もお気軽に参加して下さい。お問い合わせ、ご意見、ご要望等は幹事まで。(幹事 井垣武彦)

・パソコン勉強会より

詳しいことはインターネット・ホームページでどうぞ。TVでも、新聞でも、雑誌でも、あらゆるマス・メディアでホームページという言葉が氾濫している。パソコンを持たない人も携帯電話でQRコードから簡単にホームページを見ることが出来る、便利な世の中になったものだ。将来、パソコンに限らずあらゆる家電製品がホームページに直接つながるようになるのではと思う。パソコン勉強会ではそんな世の中で新しい機械をどのように扱うのか相談したり、教えあったりしている。パソコンに限らずその他世間一般の話題も豊富である。

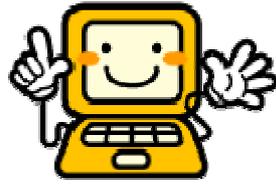
パソコン初心者には多くの経験者が自分の体験を教えている。ワードでも、エクセルでも百人百様の使い方、自分の最も慣れた方法を教えているので、どれが自分に適当か考える必要があるが、勉強会は皆さんの知恵が必要だ、勉強

会に出席しませんか。

マイクソフトは、新しいパソコン用基本ソフト(OS)「ウィンドウズ7」を今年10月22日に個人向けの販売を始めるそうだ。従来の「ウィンドウズ・ビスタ」に改良を加え、動作スピードを速めた。これらのことも話題の一つである。

パソコン勉強会

田淵 守



—会員便り—

義民祭 (総社市新本) を訪ねて

去る七月の第三土曜日、総社市新本の義民祭に出かけた。今年で三回目になる。きっかけは剣持杜宇氏著「待春亭雜記」の中の一句

「雲凍てただ風塵の義民の碑」措大に惹かれたためである。(作者の故平松措大先生は明治三十一年岡山市に生まれ教育界で活躍されたホトトギス同人である)。寒風の吹き荒ぶ川原に立つ碑が迫ってくる。その義民の碑には大養木堂翁の義民の二文字が刻まれている。

ところで江戸時代には全国で千数百件の百姓一揆が起こっているそうであるが、徳川吉宗の時代当時の岡田藩(今の倉敷市真備町岡田)の圧制に対する百姓一揆で処刑された四人の義民を讃える義民祭が今も行われていることは、驚くばかりである。

当夜は近郊の大勢の人々が新本小学校の校庭

に集まり四人の義民を讃え、歌い踊って後世に伝えていく祭りである。その祭りを見ていると、私たちの生きている民主主義の時代は、昔の人々の犠牲の上に成り立っていると実感湧いて来る。「温故知新」という言葉を改めて思い出している。

本堂の書なる碑夜蟬鳴く 英一郎
義民祭守り継ぐ里や灯涼し 英一郎
(21、8、15 木村英一郎RSKOB)



歩き遍路を終えて

今、四国八十八箇所巡りがブームだそうです。先行き不透明な現在を反映しているのではと言われています。“心の癒し”を求めて巡礼の旅に出るのかも知れません。

私たち夫婦が歩き遍路を始めたのは、四年前の二〇〇五年十一月です。兵庫県西宮市に住む私の姉が歩き遍路をしております、この年の三月、家内が私の姉に同行して、八十七番長尾寺から八十八番大窪寺(いずれも香川県)まで歩き、その



体験から「私たちがはじめようよ」という家内の勧めで巡礼の旅こ出立しました。正に「同行二人」の旅です(同行二人とは弘法大師と巡礼することをいい、同行二人とかかれた杖を持つて歩く)。

“区切り打ち”というもので(コナミ広報の仕事をしていましたので、長期の休暇が取れないので、何回かに分けて遍路をする。定年退職者や若い人は通して歩き遍路。いわゆる“通し打ち”をしています)まず二〇〇五年十一月七日八日の二日間で、一番霊山寺から十一番藤井寺(いずれも徳島県)までの約三十四キロを歩きました。正直言いまして長距離を歩くのは嫌で、最初は私はあまり乗り気ではありませんでした。二日目の十番幡幡寺(徳島県)から十一番藤井寺までの9.3キロの行程は大変でした。途中、吉野川に架る潜水橋を渡るのですが、これがかかなり大回りになっています。十番から十一番まで直線距離なら七キロ足らずなのですが、大回りの為、3キロなのです。もう一つは八十八箇所最大の難所(距離は十二キロ足らずですが、アップダウンがきつくいわゆる遍路ころがし)と云われる所)十一番から十二番焼山寺(徳島県)までの行程が待ち受けている

からです。その難所の歩きは二〇〇六年の五月一日に行いました。前夜、十一番札所に近い遍路宿に泊まり五月一日の早朝に宿を元気に出発しました。しかし歩きはじめから急な上り坂。やっと登り詰めたらと思いきや今度は急な下り坂。正に“遍路ころがし”です。6時30分に宿を出発し、十二番焼山寺に着いたのが13時30分でしたから途中、昼食や休憩をしたとはいえず

時間もかかりました(健脚の方で約5時間足らずです)。当初は消極的だったこの歩き遍路。大変な難所を征服したという満足感からか不思議と疲れを感じず、何故か歩き遍路がこの頃から面白くなってきました。

そして昨年(二〇〇八年)五月まで“区切り打ち”を繰り返して、五月十一日八十八番大窪寺に到着。発心(阿波の国・徳島)、修行(土佐の国・高知)、菩提(伊予の国・愛媛)、涅槃(讃岐の国・香川)の四つの道場に耐え結願(けちがん)しました(結願した遍路さんの中には、お礼参りといって八十八番大窪寺から一番霊山寺へ。また“逆打ち”といって八十八番から一番へ巡礼する遍路さんもいます)。この年の八月、高野山(真言宗の総本山、金剛峯寺がある所)へ参り結願報告を行いました。

八十八箇所行程は約1200キロですが、私たちの歩き遍路は一部、バスなどに乗っているため800キロ余りと推定しております。このため昨年十月からはじめた二回目の歩き遍路では、完全に歩くことを目標にしています(四国へはJRか車でいきます)。現在、三十六番青龍寺(高知県)まで歩き終えています。結願まであと何年かかるかわかりませんが、人生、最後まで修行。あとは極楽が待っていてくれるでしょうか？

(行本章九 OHKOB)

ご無沙汰しております

豊かな時代を山陽放送で過ごしました。数々のゲストと盛りだくさんな番組を担当した仕事の愉しさは、感謝の気持ちでいっぱいです。現在は、山陽学園大学客員教授としてマスク



ミ論とメディア論を講義しています。とは言っても授業の内容は、私の体験した放送の日常性や客観的に見える今日のTV・ラジオの問題点を重点を置いていきます。

今日の私立大学の現状から見ても、山陽学園大学も留学生が多いです。中国・韓国・ベトナムなどアジアを中心に学生が集まります。もちろん日本人が大半ですが、揃って学生はよく勉強します。

山陽学園は「愛と奉仕」の精神が大学の建学の理念になっています。私の学生、三年生にあなただの夢は？と聞くと「人の役に立てるようにになりたい、困ってる人を助けられる人になりたい」「社長になりたい、儲けた金で孤児院を設けたい」などとそのスピリッツは学生に通じています。



ただ問題は、学生は新聞を読まない、さらにTVを見ない。インターネットの時代は確実に若い世代に浸透しています。留学生が多い点もあると思いますが、双方向性のインターネットはTVをしのいでいます。TVを見ないのは、それはそれで豊かな生活かも知れませんが…

が、ならばこそ、今日までの豊かな放送のTV・ラジオの世界を彷彿させる講義が必要になります。

考える、考える場を提供するそれが我が教室で行われていることです。

今まではTV・ラジオの中でのパフォーマンス

スでしたが、今は学生四十七名に対する臨場感・ライブの真剣勝負です。学生の持つ向学心、何事もここから始まりません。(岩根宏行 RSKOB)



あるがまま・・・

「いかがおすごしですか」・・・何人の方から暑中見舞いをいただいた。

さーて、改めてそう聞かれると・・・自問自答。たいした事はやっていない・・・というより体力、意欲の減退で、色々なものから遠ざかりました。

退職後十級から始めた習字、いちおうは「一段」まで昇ったが、六月末で筆を休めることにした。好きだった水泳も・・・(週二〜三回、



五百・八百を泳いでいたのがウソのよう百泳いだらしんどい。地元のコーラスもしかり。月二回の練習が「おととめ」の様に感じられた(ただ口をあけているだけ！?)

「ダメだなー!」と思う反面、「ピークから衰退

へ」の自己をありのまま受容し、「がんばらなきゃあいけんいけん」と無理に努力をする必要

もないのではないか・・・と小さな畑の草を抜きながら自己を正当化したり慰めたり・・・。ただ地域の行事は、役目上ほぼ欠かさず参加。あと高等学校のお世話を少々。

れた。我が家は両親と五人の子供を抱え、末っ子は僅か一歳の弟。とても遠くまでは逃げられなかった。だが日々死に物狂いで山頂目指して登り隠れた。夜間日が暮れてから帰宅する。その生活が一週間も続いただろうか。ある日食糧の調達に昼間父と私がこっそり帰宅して見ると、家の中は家財は無く空っぽだった。紙くずやぼろ布が一面に散らばっている。ソ連の兵隊が略奪に訪れ、腕時計や貴重品を悉く奪い、更に近所の朝鮮人にその他の全てを持ち去られたのだ。我々は全く着のみ着のまま山中に逃げ込まざるを得なかった。

がんばらぬ 生き方もあり 冷奴
あるがまま 淡々と生き 草を抜く
(織田照男 RSKOB)



終戦記念日に想う

去る八月十五日、六十四回目の終戦記念日を迎えた。あの終戦から既に六十四年が経過したのだ。当時私は弱冠九歳の少年、国民学校の四年生だった。その場所は全世界の批判の渦中にあつてなお核実験や拉致を行う「ならず者国家」北朝鮮だ。毎年この日を迎えるとき当時のことを思い出す。

我が家は官僚だった父の仕事の都合で、満州との国境、鴨緑江にほど近い平安北道の厚昌(フチャン)という小さな町に住んで居た。朝鮮の霊峰白頭山(ペクトサン)が遠くに見えるところだ。そこは終戦と共に朝鮮の三十八度線以北に駐屯を開始したソ連軍の通り道に位置していた。

終戦日を境に毎日ソ連軍の軍用トラックが荷台一杯に兵隊を乗せて四〜五十台通過する。そのソ連軍が日本人を見かければ皆殺しにするという噂がながれた。小さな町なので住んでいる日本人は二〜三百人だったであろう。この噂に怯えた日本人は全員、昼間は周りの山中に隠

りされ、見つかった日本人は全て町の幼稚園に收容させられた。そこには毎日のようにソ連の兵隊が略奪にやってくる。だが聞かされていたように日本人は見つけ次第殺すという噂がデマだったことが分かった。初めて見るソ連兵(我々はロスケと呼んだ)は軍服は統一されてないし、色も様々。下級の兵隊はお粗末きわまる格好だった。だが所持する銃だけは立派で日本の三八式鉄砲とは異なり、七十二発の銃弾が即座に発射出来ると聞いた。

九月に入ると戦後のどさくさもやや納まり、我々は幾らか小分けした場所に分けられて住むようになった。だが戦勝国ソ連軍の敗残者たる日本人への傍若無人さは留まるところを知らず、暴行強姦はひっきりなしだった。

日本人の多くは早く内地に帰りたいとの希望が当然ながら強く、無理とは知りながら大勢が引き揚げを敢行した。我が知り合いもトラックの荷台に揺られて次々に去って行った。だが殆どの人は三十八度線を越えることが出来ず、死の運命を辿ったとの噂はしきりだった。

我が家は幼子を抱え、無事帰還が叶うまで待とうと、父の決断で町に居残ることになった。そしてこのときから我が家族の悲惨な生活が始

まる。植民地として支配した日本はいまや立場を変え、彼らから報復の対象となつて虐待を受けた。しかも四面楚歌の中我々は生活の糧を得るべく働かざるを得なかつた。私は九歳で幾種かの仕事を心得て糧を稼いだ。戦後一年半、異国で過ごしたその苛酷な悲惨な体験は何時までもわが記憶に鮮明に留まつている。ようやく内地に帰国出来たのは昭和二十二年一月。終戦記念日にはいつも思い出される我が耐えがたい悲惨な体験。だが貴重な実体験だ。

(亀山寿志 RSKOB)



徒然雑感二題

漢詩に再び魅せられたが...

新漢詩紀行がNHKハイビジョン月々金曜午前七時二五分から五分間加藤剛の朗読で放送されている。

漢詩といえ五八年前の昭和二年、高校一年漢文の授業で、国破山河在 城春草木深(杜甫の春望)を耳にしたとき鳥肌が立ち感動したことを思い出す。それ以来美空ひばりの唄と合わせて惚れ込んだ。

千里鶯啼緑紅映(杜牧の江南春) 春眠不曉覺(孟浩然の春暁) 春宵一刻直千金(蘇東坡の春夜) 屈原即放(屈原の漁父) 月落烏啼霜滿天(張繼の楓橋夜泊) 一杯一杯復一杯(李白の山中幽人對酌) などなど昔空んじた漢詩が蘇る。五文字、七文字に凝縮された漢詩の味は読めば読むほど味があり魅せられたものだ。

白髮催年老、物忘れが多くなり、また酒量が落ちた昨今、聞くほどにもの悲しい限りであるが。



組のおじさんたちは今...諸行無常

昨年三月三歳下の弟今年三月九十八歳のお袋が亡くなり、法事などで九州福岡に度々帰り、昔可愛がつてくれた組のおじさんたちはどうしてるのかなと気になった。

戦後父がF県石炭鉱業連盟?というところに勤めていた。(OHK二代目社長岡崎林平さんが理事長 当時炭鉱の作業服や軍手、地下足袋などは統制され配給制だった。父はその窓口の係りで、このためかよく家に関係者が出入りしていた。中には一見怖そうな人たちも出入りし、よく家で酒盛りがあり、父は酒を嗜ないので、その代りにその人たちの膝で可愛がつてもらった。背中には俱利伽羅紋々の刺青があったが優しかった。

後年筑豊飯塚で青春時代を過ごしたが、当時旧やくざは、革ジャンに半長靴、新興ヤクザは黒のスーツでビシヤリと決め込み、今風にいえばイケメンだった。利権をめぐる拳銃で射殺されたり、匕首で殺されたり、出入りも頻繁にあった。市会議長の家に夏遊びに行くと、当時はエアコンなど無い時代、ふんどし姿で上半身は裸、扇風機にうちは、背中の入れ墨は刀傷への字に曲がり、お妾さんが本妻さんや若衆の世話をするとこの奇妙な光景がみられた。

みんなに嫌われるやくざ、今では鼻つまみになっているが、昔は義理人情に厚く、追丁カブでは八九三で足すとゼロ、ブタといって最低の数だが、花札では芒(月)菊、桜でテッポウという最高の益札だ。尾崎士郎の人生劇場、五木寛之の青春の門、火野葦平の花と竜などに出て

くるヤクザは強きを挫き、弱きを助けるいわゆる男気のある人がいて青春時代の憧れの姿でもあった。やくざを肯定するものではないが、血の氣と郷愁を感じさせるものがあつたのも確かである。

(渡辺昭朗 OHKOB)



山陽映画

五十周年事業記念上映会

昨年、山陽映画株式会社は創立五十周年をむかえました。これを機に、映像作りにご理解を示していただいた多くのスポンサーや社外協力者、そしてこれまで支えてくださった地域のみなさんに御礼の意味もかねて、何か作品の上映会でも企画したらどうかと今年の春OBの方々に提案がなされました。早速社内にて五十周年事業記念上映会の準備委員会を設けて検討を重ね、さる八月二十九日・三十日の二日間、岡山県立図書館のデジタル情報シアターで上映会を実施、無事終了いたしました。

開催日は衆議院議員選挙の終盤・投票日と重なったため、どのくらい来場していただけたか心配ではありましたが、二日間で百五十名をこえる方々に足を運んでいただき、八十二席の観客席はほぼ満席状態となりました。上映会は映像コンクールで受賞した作品のほか、昭和三十年代を中心にした五十周年の映像記録や現在制作を担当している放送番組の番宣など交えた構成となりました。

長編記録映画・瀬戸大橋、映像評伝(二十九日 湯川秀樹、三十日 朝永振一郎)の上映に

あたっては、濱家輝雄氏の司会で制作に携わつたOBの方々による作品の見どころや作品作りの裏話なども披露され、三十日にはフィルム時代に活躍したカメラ機材の展示なども行いました。

上映会の準備委員にはこれからの山陽映画を担う若手になつてもらい、OBの皆さんとの意見交換会を経て上映プログラムを決定、また、社内試写を行い、先輩方のアドバイスを受けたがら五十年史や作品紹介ビデオなどを制作、文字通りOB・現役一体となつての取り組みとなりました。

創立当初より映像関連業務を通じて地域社会の文化・教育・経済の発展に貢献すること、そして、山陽映画があつてよかったと皆様に感じていただける会社にしようとの社員一同の思いは今も変わつてはおりません。

「これまでの五十年を礎にこれからも時代の変化に対応しながら新しい映像の世界を切り拓き、これまで支えてくださった皆様にとさらにお役に立てるよう努力を重ねよう!」

上映会を無事終了しての社員一同の思いです。(山田伸一 RSKOB・山陽映画社長)

神話の国・出雲の弥生遺跡見学

来年の一月から二月にかけて岡山県立博物館で開かれる「古代出雲展 国宝青銅器の世界」に出品が予定されている青銅器が出土した島根県の二つの遺跡を見学して来ました。

いずれも宍道湖の南の山あいにある弥生時代の遺跡で、大量の銅剣や銅鐔が出土して全国的に注目を浴びた遺跡です。

島根県斐川町の荒神谷遺跡は昭和五十八年に広域農道の建設現場から三百五十八本もの銅剣



が出土した遺跡です。これまで全国で三百本の銅剣が見つっていますが、一箇所からそれを上回る数の銅剣が出土したことで有名になりました。現地には三百五十八本の銅剣がきちんと四列に並べて埋められていた様子が再現されていました。荒神谷遺跡からは銅剣のほか銅鐔六個と銅矛十六本も見つかっています。

雲南市かも町のかも岩くらい席は平成八年に農道の建設現場から三十九個もの銅鐔が見つかったことで知られる遺跡です。こちらの遺跡でも、銅鐔が出土した時の様子が再現されていました。

銅剣も銅鐔も弥生の人たちが神を呼び、神に祈りを捧げる祭器、神器として発達したものだといわれています。「古代出雲展」には国宝に指定されたこれらの銅剣や銅鐔がそろって岡山にやってきました。

展示会場で解説ボランティアを努めるため、現地見学会や講義など、十一回の勉強会で目下、特訓を受けている最中です。

(谷本保夫 RSKOB)



スで、ブログの進化した通信といわれています。ハナショーとは岡山弁の「話をしよ」をもじって作られた名前です、岡山市が平成二十年から実験的に市内公民館のパソコンサークルなどを通じて運用を開始し、今年から正式運用されています。会員はお互いにニックネームで呼び合います。色んなジャンルの仕事、趣味、地域活動をやっている方々がネット上で自由に情報交換できることが特徴です。

システムでは各種のコミュニティがあり、気に入ったグループに加入して情報交換するしくみになっています。例として「ふれあいネットワーク旭東」、「よろず川柳」、「岡山の美味い!!!」、「沢田の柿育て隊」、「瀬戸内釣り大好き部」など二百以上が登録されています。

加入は会員の紹介が必要で、会費は無料です。興味のある方は、ハナショーで検索するか下記のアドレスでwebのTOPページを

ご覧くださいと詳細がわかります。入会ご希望の方は私あて連絡をいただければ、紹介致します。

ハナショーアドレス <http://sns.hanashow.jp/>

(若槻 匡志 RSKOB)

SNS「ハナショー」の紹介

SNS(ソーシャル・ネットワーク・サービス)は、電子メールの情報交換を通じて、安全安心な地域社会を育成することを目的とするサービ



祝詞で始まる私の一年

現役を退いてから五年余り、……。六十歳定年になったら仕事から離れ、健康にある程度自信の持てる七十歳までの十年間に、色々な事を実行してみたいと……。

- 健康づくりとして、すぐ近くにある神社の石段を通り裏山に登って帰る、毎朝一時間程度の散歩。(七千歩余り)
- 四季折々の草花作りや野菜作り
- 公民館講座の受講や、地域でのボランティア活動
- 神社神道の基本習得
- 趣味の登山・写真そしてゴルフ等々。

定年後の生活にも慣れ、希望を少しずつ実行に移し、健康で快適な毎日(過)している。

退職後、是非実行したいと思っていた一つ、「神社神道の基本習得」。

代々我が家は神社神道であった。にもかかわらず、余りにも神社神道について無知であった為、少なくとも、ご先祖のまつりごとの基本だけは学びたいと思ひ、

退職した年の八月、実行に移した。

岡山県神社庁(護国神社の境内)に一ヶ月間



通ひ、毎日、十数名の仲間とともに講習を受け、神職としての最低の位「直階」を取得した。これで、我が家での、ご先祖のまつりごとは何とかなできると安心していった。ところが、私が「直階」を取得した事を知った、地元鴨方の氏神様(鴨神社)の氏子総代長より、元旦の「歳旦祭」を執り行つてほしい旨要請があった。

然し、私としては、我が家のご先祖のまつりごとが出来よう、本当に基本的な事柄を習得しただけである事、従って神主をするつもりは毛頭ないし、まして神社のまつりごとを執り行う事は出来ない、鄭重にお断りをした。が、度重なる要請に止む無く引き受けざるを得なかった。

と言うのも、戦前までは、全国各地の神社は、国により保護されており、神主の給与は、国から支給されていた。ところが、昭和二十年の敗戦により、GHQの神道指令によって、神社は国からの保護が受けられなくなり、給与の支給がなくなった。

そのため、規模の大きい神社(氏子が多い)とか有名神社以外の、各地の神社で、神主の生活が成り立たなくなりました。従って、規模の大きい神社・有名神社の神主が、十数もの神社を兼務し、年間のまつりごとは、それぞれ、曜日をずらして執り行っている。が、正月だけは、曜日をずらして執り行うことが

できない為、どうにもならず、神主不在となっていた。

こういう理由で、毎年、我が鴨方の氏神様「鴨神社」の、年の初めのまつりごと「歳旦祭（午前0時15分より45分ごろ）」をとりおこなう事となった次第である。

「高天原に神留り坐す 皇親神漏岐 神漏美の命以ちて 八百萬神等を神集へに集へ賜ひ 神議りに議り賜ひて 我が皇御孫命は 豊葦原水徳國を 安國と平けく知ろし食せと・・・・・・」

そして、今年でもう五回（五年）を数えた。元気で居られる限り、私の一年は、鴨神社での祝詞奏上で始まる。（川上弘道 RSKOB）

落雷被害に遇って

七月二十二日深夜一時八分の事。ものすごい轟音で、寝入り端の私は飛び起きた。

窓の外が昼のように明るくなったのを見て、爆弾テロでも起こったのかと思ったが、その後停電に気付き、それどころではなくなった。枕元のケータイの薄明かりを頼りに、懐中電灯を探して階下を下りた。

ブレーカーが落ちたのは、二階の二部屋と一階の食堂のみ。ブレーカーを上げると明かりが点いたので、暗闇の恐怖は去ったものの、明るく朝テレビもインターネットも繋がらない。

結局買ったばかりのデジタルテレビ（これだけは修理可能だった）を含め三台のテレビとマルチエアコンの室外機が、電源基盤を破壊されて、泣く泣く廃棄処分。

雷が落ちたと言う他人の話は聞いた事があるが、まさか我が身に起こるとは・・・・。

その後、各メーカーのサービスセンターに頼って点検に来てもらい、修理不能の証明書をもらうなど大変だった。

唯、救いは保険に入っていた事。頑張って各々の証拠写真を撮り、領収書やら証明書やら添えて保険会社に送ったので、経済的には困らなかつた。

それどころか買い換えたエアコンは、お掃除機能の付いた最新型なので、冷えも抜群！

天国の夫が、「お母さん、そろそろうちの電化製品を取り替えるよ。」と言ってくれたのだと思う事にした。『備えあれば憂いなし』

（横田真理子 RSKOOG）



「広さんはなにゆう勉強したんなら」

とよく聞かれるので横丁の大家さんを真似て、もつともらしく述べてみました。

山陽新聞朝刊に『親鸞』（五木寛之）が連載されていたが、読まれた方もおられるだろう。親鸞といえば、「善人なおもて往生す。悪人おいておや」という有名な言葉を思い出されるであろうが、これは法然が元から述べていた言葉だと五木氏もこの小説で書かれている。

善人が極楽往生するのは当然で仏様は（悪人を救うためにおられるのであるから）悪人をこそ極楽往生させるのだ、という逆説的な主張である。仏教というタイトルの人は葬儀や死を連想して縁起が悪いと顔をしかめてしまうが、仏教はもともと「人はなぜ生きているのか」「どう生きるべきか」という人生哲学から始まっている。

釈迦の悩みは、生まれた以上自然界の法則にしたがって他の動・植物と同じように生きていかなければならないが、「人生は一切苦である」ということに始まる。人生いきづまってくるとう四苦八苦するというのが、この苦というものをいかに楽に転換して生きていくか（抜苦与楽、という哲学である。

四苦とは、「生、老、病、死」をいう。生まれることが苦である、というのは分かりにくいが生まれることによって死の恐怖が始まるからである。人間老いることも、病気になることも苦であることは分かり易い。八苦とは残りの四苦を足すことで八苦となる。

即ち、「愛別離苦」（愛する人と別れなければならなくなる苦）、「怨憎会苦」（おんごうえく・会いたくない人と会わねばならない苦）、求不得苦（ぐふとつく・欲しいものが得られない苦）、五蘊盛苦（こうんじょうく・五体自身が盛んに欲求する苦）をいう。この苦を克服して人間同士お互い快適に過ごすために最低限の約束ごとを守って生きてゆこうということ述べているのが経典である。なにせ釈迦は相手に合わせて八万四千の種類の説法をされたといわれている。（そのどれかをとらえてこれこそ釈迦が言っていたことだと後年夫々の人が主張したことが多くの宗派を作ったと私は思っている。）釈迦は生前自分の説法が誤解されないよう文字にすることを禁じた。文字にすると読む人によっていろいろに解釈されるからである。だから説法でも聞く人が誤解しないようにいろいろな説き方をしたのである。現代に残る経典はその死後1000年以降、弟子達によって記録されたものであり、弟子の解釈も混じっているといわれている。

ともあれ、釈迦の悟りは「苦集滅道」（四諦説）という。この世は苦であり苦の内容を知り（集）、それを滅する方法を見つけ処方をする（道）こ

とをいう。その滅する方法を「八正道」というが、長くなるのでここでは述べない。

法然と親鸞の「道」は、どんな人にも貧富、身分、賢愚などの別なく平等に死がある、善人のみならず悪事を働かねば生きられない人、富にかかわらず平等に浄土へ行けるのでなければ仏様は何のためにいらつしやるのか、すべて阿弥陀様にお任せしようというのである。飛行機に乗ってから落ちる心配をする（生まれた以上死を苦にする）ことは無駄で、もう機長（阿弥陀様）にお任せするしかない（念仏）ということである。しかし、そのことよって安心して悪いことができると、その理論を悪用する人もあつてそれが世の中を乱したと罪を問われ、時の幕府、仏教界から訴追（流罪）されたのである。

現代はこの世しか信じられない人が多いが、当時（中世）は死んでからの世界も考えてこの世を生きていたのである。「送り人」で有名になった青木新門氏の指摘は、現代の人もあの世に行つてからのことも考えて生きていくべき、ということである。

（広坂武昌 RSKOB）

一過性大腿骨頭萎縮症！

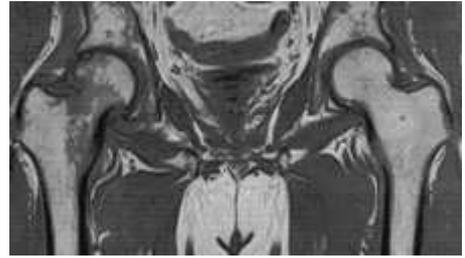
年を重ねるといろいろな病気が襲ってきます。表題の病名をお聞きになったことがありますか？

実は今年六月中旬からこんな聞いたこともない病で苦しんでいます。右の太ももにギックリ腰のような強い痛みが出てどうどう歩行不能になり岡大病院に駆け込みました。



五年半前に前立腺癌の摘出手術をしているので、つぎ骨転移だと思って泌尿器科に行きました。

造影剤を注射しての骨シンチグラフ検査とMRI検査、それにX線の平面写真数枚を前に医師は「癌の骨転移」か、もしくは美空ひばりが罹った国指定の難病【大腿骨頭壊死】の可能性が高いが治療方針を決めるために骨の専門である整形外科を受診するように指示されました。



私にとっては死の宣告を受けたにも等しく目の前が真っ暗という状況でした。一週間後整形外科医は各種画像を撮り直して《経過からみてどうもA骨転移やB骨頭壊死ではなく【C一過性の大腿骨頭萎縮症】とみるのが一番妥当のようです》と言うではありませんか！

当然AかBしかないと思っていた診断が全然別のCだったので。

一過性大腿骨頭萎縮症などという一度も聞いたことがない病名に驚きどんな病気が尋ねました。

原因不明、治療法なし。痛みを緩和するための薬物投与のみ、半年から三年程度と幅はあるものの自然治癒することが多く、岡大病院でも年間数例、ごく最近知られるようになった病気だそうです。

ともかくにも悪い病気でなかったので一安心、安静にしていたせい

か痛みも少しずつ治まり杖をつけば500メートルぐらいは歩けるようになりました。

写真はX線画像です。左右の丸いところが股関節にある大腿骨の骨頭部分です。向かって左(本人にすれば右)の丸味が少し不整です。

毎日運動せず食べては寝るの繰り返しなので体重増加による骨折が心配です。腹が減っても死ぬより良いかと思つて毎日食べる我慢を続けていますが思つたほど減量できません。

もう少しだけ憎まれっ子世に憚るで行きますのでどうかよろしくお願いします。

平成二十一(2009)・09・01

(安田了三 RSKOB)

おかげさまで

体調がほぼ健康状態に戻り、登山、写真、パソコン等を楽しんでいます。やはり自分の健康維持には登山が一番向いていると思ひ、今年は大山山域を主に色々なコースをマイペースで歩いて、身体を鍛えています。

(井垣武彦 RSKOB)

あてやか



昨年の支部総会でデモをお願いした、松本亭、高木俊子のお二人です。これに魅せられてダンスを始めてしまった会員の方、今はどうなっているのでしょうか？

(撮影、祇園吉絃 OHKOB)

「夏から秋へ」十句

夕焼けて太公望の動かざる

仰ぎ見る五重の塔や田水沸く

人棲まぬ家やのうぜんかづら咲く

河童忌や男にもある更年期

風鈴に風なき漫画美術館

音もなく流るる川や墨とんば

足元に鯉の寄り来る梅雨明けかな

法然の直羊の文涼新た

鐘楼は鳴りをひそめて広鳥忌

ただ南無と唱えてをれば小鳥来る

作 松田通男(平成二十一年八月)

「舌下錠」

ゴメンナサイ美人看護師針四度

もう退院隣の人は入れ替わる

回診に退院話今日もなく

舌下錠時計が止まるかもしれぬ

細き脚鼓動は弱くマシン漕ぐ

病状の厳しさ妻に聞かされる

久しぶり我が家のトマト色づいて

(菅田一郎 RSKOB)

— 会員動向 —

退会

木村 茂さん (RSK OB)

斉藤一博さん (RSK OB)

共にこの半年の間に他界されました。(岡山支部・百三十八名)



編集後記

長い梅雨に厭しい残暑・・・不順な夏も終わり、ようやく涼しくなってきました。この秋は中国ミシン岡山大大会の年です。その成功に一役買える機関紙にしたいと思つていましたら、皆様からこれまでに多くの原稿をいただき、ありがとうございました。ただ並べただけになりましたが、さすがに皆様、読み出しただけならぬ機関紙になったような気がします。この勢いで十一月十二、十三日の岡山大大会の成功へと行きそうです。(S)